鈴木ちなみさん インタビュー

「背伸びせず、等身大で」

―海外はもともと好きだったんですか。

「プライベートでは一度も海外に行ったことはないです。学生の時に語学研修でフロリダとニューヨークに行ってから、また行ってみたいなと思って。仕事でお金をためて行こうと思っていたのが、ありがたいことにお仕事で行かせてもらえるという環境になりましたね」

―良い仕事にめぐりあったんですね。

「本当ですね。アメリカに行くことも多いんですけど、ヨーロッパとかこの前もトルコに行ったし、アジアも行ったし。アフリカ大陸だけ行っていないので、アフリカに行くのが夢です」

―何をしたいですか。

「動物に会って、あとは星空を眺めて動物の鳴き声とか聞きながら眠りたいです。野生の中にまぎれたいですね。そんなことしたら食べられちゃいますけど（笑）」

―印象的だった国は。

「どの国も楽しい思い出がたくさんあるんですけど、やっぱりペルーが一番ですね。マチュピチュに行って、リマとクスコとウルバンバに行ってきました。アンデス山脈の山がすっごい高くて。日本とはスケールの違う高さだなと。列車で山あいを抜けてマチュピチュに行くんですけど、ガラスに張り付きながら見たりしましたね。あと食べ物がすごくおいしくて。遺跡とかナスカの地上絵だったり、マチュピチュのイメージしかなかったんですけど、人が優しくてすごくあったかくて。南米の陽気さもあるんだけど、でも日本人みたいな、かゆいところに手が届く優しさもある人たちが多くて印象的でしたね」

―そのほかにはどうですか。

「ハワイは一番行っている回数が多いのもあるし、最初に海外ロケでちゃんと星空を見たのがハワイ島だったんですね。いろんなところで星空って見ていたんですけど、ハワイは世界中の天文台が集まっている場所だけあって、すっごく星がきれいでしたね。初めてハワイ島で星を見て1年後くらいにまた行って、やっぱりここが本当にきれいだなと感動しました」

―一般的には海のイメージが強いですよね。

「海ももちろんきれいなんですけど。ハワイ自体が大地にパワーがあるところなので、大地でパワーをもらって海でけがれをそぎ落として、星空を見て心を癒やすみたいな。そんな感じでした」

―いろいろなタワーにも登っています。

「マカオタワーで高いところに登って綱一本で外を歩いたんですけど、私の体の中の高い所センサーがたぶん測り切れてなくて、振り切れましたね（笑）。マカオタワーは338㍍なんですけど、最近カナダのトロントでCNタワーっていうところに登って。高さ356㍍の外周を歩いたんですけど、すごく気持ちよかったですね。スカイツリーができる前までそのタワーが世界で一番高かったところで、マカオタワーより高いんですけど全然怖くなくて」

―高い所は得意だったんですか。

「大好きではないですけど平気でしたね。お仕事で国も制覇してますけど、名だたるタワーは制覇してます。ドバイのブルジュ・ハリファとか、ニュージーランドのタワーも行ったし、マレーシアのツインタワーのペトロナスタワーにも行きました」

―高い所は任せろ、と。

「任せてください（笑）」

ハワイの夜空に感動
夢はアフリカ大陸！

―テレビを見ているといつも元気なイメージです。

「朝の番組だし、元気に明るくっていうのを心がけてますね。でも一番大事にしているのは、私がフィルターになって、視聴者が一緒に旅した気分になってほしいなとか、その国に初めて私と行った気分になってほしいなというのが根底にあって。それだとまず楽しむことが前提じゃないと興味を持ってもらえないので」

―仕事で、やろうと決めていることは。

「気持ちの部分ですごく大切にしていることは、楽しくお仕事をすること。楽しいというのもいろいろあって、本当に楽しい時もあるし、大きな壁にぶち当たって楽しい時もある。どんな状況でも自分に課せられたことを、その時の等身大の自分でやりきれるように、っていうのはいつも心がけていますね」

―大きな壁って。

「そう言われると、ないなって思うんですけど（笑）。でも過ぎ去ったからそう言えることが多くて。たとえば去年だったら、みんなより稽古期間が半分くらいで同じ舞台に立たなきゃいけないとか、バラエティー番組で急に船上アナウンスをやりなさいって言われたりとか。だからそういう時もあるけど、不完全燃焼で終わらないように心掛けています」

―仕事を始めた時からそういう姿勢だったんですか。

「あったと思うんですけど、まずは慣れるのに必死でしたね。最初は現場に行くだけでも緊張したりとか。行く場所ごとに人も違うし、お仕事のスタンスとかスタイルも違うので。どこの現場に行くにも慣れてきて、自分らしさを出せるようになってきて、それでやっとこういう感じになりました」

―リポートも等身大なんですね。

「背伸びをせずに本当に自分の思ったことを、素直に話せる環境でリポートできるのはすごく幸せですよね。決まったことを全部覚えなくていいので（笑）。だらだらしゃべるわけにもいかないので、表情とかで伝えられたらいいなと思っています」

「舞台、ドラマ…未知に挑戦したい」

―9月に24歳になりました。

「もうちょっと大人になろうかなと思っているところです。23歳は写真集を出させていただいて、『TOP OF THE WORLD』のDVDも出させていただいて、いろんなメディアに出させていただいて、すごく激動でした。24歳はさらに飛躍できたらいいなと思っています」

―23歳は転機になったんですね。

「いま考えてみたら、同じ年に写真集もDVDも出せると思っていなかったので。写真集すら出せると思っていなかったし、不思議ですね。来年何しようかなっていう（笑）」

―芸能界の仕事を始めたころは、今ぐらいの年齢の時にどうなっていると思っていましたか。

「まったく想像してなかったです。まず写真集とDVDを出しているとは思ってなかったです。きっかけがモデルだったので『モデルのお仕事を続けているのかな』、もしくは『実家に帰っているのかな』って思っていたくらいなので。でも今の自分でも、25歳になった自分って想像できていないので、たぶんそれと同じで6年前の自分もそうだったと思います」

―日々、目の前のことをやってきたと。

「そうです。それに尽きますね。その日だけのチームだったりとか、その日しかお会いできない方だったりとか、そういう現場がすごく多いので。1回1回大切に丁寧に感謝してお仕事をすることが積み重なっていると思います。周りの人に恵まれているので、私は一生懸命やっているだけです」

―これからどうなりたいか描いている姿はありますか。

「女優さんをやりたい気持ちはあるので、24歳は演技のお仕事をもっとやりたいです。去年も舞台に何本か立たせてもらって、ことしの4月も舞台に立ったし。舞台か映画かドラマかわからないですけど、演技の仕事の幅も広げて行けたらいいなと思います」

―女優の仕事はリポーターとは違いますよね。

「リポーターをしていて、色とか音とかにおいとかいろんな情報を知らず知らずに感じて、以前とは違う引き出しが増えていると思います。それを演技のお仕事に生かしていけたらいいですね。いままで舞台やドラマをやりましたけど、未知数の幅の方が広いので、そういうところに挑戦していくのが楽しみです」

―10年後にどうなっていたいですか。

「えー、10年後ですよね…。34歳なので結婚していたいですね（笑）。結婚して、でもお仕事とも丁寧に向き合えていたらいいなと思います。働く女性としても、一人の女性としても充実していたいな。東京五輪が決定してから、7年後を考えることが多くて。今まで自分が海外に行って海外の香りを感じていたけど、五輪が日本で開催されることで、日本人も海外の香りを日本で感じられる機会も増えるんじゃないかな、って楽しみです」

―女優の仕事も等身大で。

「はい、背伸びせずに。34歳になっても『かわいい人だね』って言われるような女性でいたいです」

すずき・ちなみ　89年9月26日生まれ、岐阜県出身。「めざましどようび」TOP OF THE WORLD」リポーターとしてレギュラー出演中。また講談社「with」の専属モデルのほか、ドラマ、映画、CMなどで活躍中。公式ブログ「ちなみのヨリ道」更新中。